

平成 28 年 網走市議会
総務経済委員会会議録
平成 28 年 9 月 27 日 (火曜日)

○日時 平成28年 9 月 27 日 午前10時00分開会

○場所 委員会室

○議件

1. 議案第 6 号 平成28年度網走市一般会計補正予算中、災害復旧費について
2. 議案第 7 号 平成28年度網走市公共下水道特別会計補正予算について
3. その他

○出席委員 (8 名)

委員長	渡部 眞美
副委員長	井戸 達也
委員	川原田 英世
	工藤 英治
	佐々木 玲子
	田島 央一
	小田部 照
	松浦 敏司

○欠席委員 (0 名)

○委員外議員 (1 名)

議長	山田 庫司郎
----	--------

○傍聴議員 (0 名)

○説明者

副市長	川田 昌弘
経済部長	後藤 利博
観光部長	二宮 直輝
水産港湾部長	河野 宣昭
建設部長	石川 裕将
水道部長	佐々木 浩司
農政課長	川合 正人
観光課長	伊倉 直樹
港湾課長	佐々木 修司
都市開発課長	立花 学
土木管理課長	高橋 勉
土木管理課参事	阿部 昌和
下水道課長	中村 昭彦

○事務局職員

事務局長	大島 昌之
事務局次長	永倉 一之
総務議事係長	高畑 公朋
主査	寺尾 昌樹

午前10時00分開会

○渡部眞美委員長 お疲れ様です。

ただいまより、総務経済委員会を開会いたします。

本日の委員会ですが、議案 2 件について審査をいたします。

まず初めに、議案第 6 号平成28年度網走市一般会計補正予算中、災害復旧費につきまして説明を求めます。

9 件は関連がございますので、一括の説明を求めたいと思います。

○立花学都市開発課長 議案第 6 号平成28年度網走市一般会計補正予算について御説明いたします。

追加議案資料の 1 ページ、資料 4 号、補正予算の概要をごらんください。

1 の歳入歳出予算の補正であります。災害復旧費にかかわる一般会計 6 億 5,488 万円を追加補正するものであります。

補正後の予算額及び 2 の地方債の補正は記載のとおりでございます。

資料 2 ページをごらんください。

8 月の大雨にかかわる災害復旧事業は、道路河川災害復旧事業のほか、8 つの災害復旧事業を行うものであります。

補正の理由についてであります。9 つ全ての災害復旧事業で関連がありますので、一括して御説明いたします。

8 月 19 日から 23 日にかけて、たび重なる台風の影響を受け、19 日から 23 日に総雨量 227 ミリを観測し、道路施設等の被害が発生いたしました。

被災の箇所数といたしましては、道路施設 101 カ所、河川施設 18 カ所、港湾施設 2 カ所、公園施設 5 カ所、公営住宅敷地 1 カ所、農業用施設 3 カ所、観光施設 3 カ所、スポーツ施設 2 カ所、総数 135 カ所

の施設を復旧するものでございます。

資料4ページをごらんください。

まず初めに、平成28年度一般会計道路等災害復旧費補助道路河川災害復旧事業補正予算について御説明いたします。

内容でございますが、道路復旧にかかわる工事費1億1,500万円、河川復旧にかかわる工事費4,400万円、事務費及び公用車燃料費60万円、合計1億5,960万円を追加補正するものでございます。

2の補正額については、記載のとおりでございます。

次に、資料5ページをごらんください。

同様に、道路等災害復旧費単独道路河川等災害復旧事業について御説明いたします。

内容でございますが、道路復旧にかかわる工事費1億6,180万円、河川復旧にかかわる工事費5,120万円、調査設計費6,800万円、路面清掃等にかかわる委託料65万3,000円、車両借上料685万円、原材料費699万7,000円、合計2億9,550万円を追加補正するものでございます。

2の補正額については記載のとおりでございます。

次に、資料6ページをごらんください。

同様の港湾施設災害復旧費補助港湾施設災害復旧事業について御説明いたします。

内容でございますが、マイナス4メートルの川筋航路及びマイナス2メートルの川筋物揚場3号泊地が埋塞土砂の影響から、それぞれ必要な水深が確保できなくなった6,000平米、2カ所をしゅんせつするものでございます。

事業経費は、深淺測量等にかかわる委託料150万円、しゅんせつ工事にかかわる工事費1億2,000万円、合計1億2,150万円を追加補正するものでございます。

2の補正額については記載のとおりでございます。

次に、資料7ページをごらんください。

同様に、公園等災害復旧費公園等災害復旧事業について御説明いたします。

内容でございますが、補助公園災害復旧事業による園路、単独公園災害復旧事業によるのり面復旧にかかわる工事費2,310万円を追加補正するものでございます。

2の補正額については、記載のとおりでございます。

次に、資料8ページをごらんください。

同様に、公営住宅災害復旧費単独公営住宅災害復旧事業について御説明いたします。

内容でございますが、公営住宅敷地のり面の復旧にかかわる測量設計費950万円、工事費1,650万円、庭木擁壁等の物件補償費330万円、合計2,930万円を追加補正するものでございます。

2の補正額については記載のとおりであります。

次に、資料9ページをごらんください。

同様に、農業用施設災害復旧費単独農業用施設災害復旧事業について御説明いたします。

内容でございますが、卯原内ダムファームポンドの復旧にかかわる設計委託費50万円、工事費180万円、卯原内ダムの卯原内沈砂池及び越歳沈砂池のしゅんせつにかかわる工事費1,180万円、藻琴川樋門排水ポンプ設置にかかわる工事費380万円、合計1,790万円を追加補正するものでございます。

2の補正額については記載のとおりであります。

次に、資料10ページをごらんください。

同様に、観光施設災害復旧費単独観光施設災害復旧事業について御説明いたします。

内容でございますが、大曲湖畔園地内の園路復旧にかかわる工事費540万円、呼人浦キャンプ場及び呼人探鳥遊歩道の倒木処理、清掃等にかかわる委託料68万円、合計608万円を追加補正するものでございます。

2の補正額については記載のとおりであります。

最後に、資料11ページをごらんください。

同様に、社会教育施設災害復旧費単独スポーツ施設災害復旧事業について御説明いたします。

内容でございますが、市民健康プールの駐車場のり面復旧にかかわる工事費90万円、レイクビュースキー場駐車場にかかわる工事費70万円、委託費30万円、合計190万円を追加補正するものでございます。

2の補正額については記載のとおりであります。

以上が、災害復旧にかかる補正予算の御説明でございます。

○渡部眞美委員長 ただいま御説明いただきました災害復旧費9件につきまして、質疑に入ります。

○松浦敏司委員 ここ数年、この時期に大雨による災害がふえています。

以前にも指摘したことがあるのですが、とりわけ河川においては、毎年のように災害に遭っては復旧し、また同じようなところが災害を受けるというよ

うなことが起きているのではないのでしょうか。

例えば、稲富の千草川だとか、それから、ピットカリだとかという名前が毎年のように出てくるように思っておりまして、そういう意味では、復旧ですから元に戻すというのが基本なので、そういうことなのだろうと思うのですが、ここ数年来のこういった異常な状況は、ひょっとして異常ではなく、これから当たり前のように来るのではないかというふうに言う人も結構いらっしゃいます。

そういう点では、今後の復旧のあり方についても、見直さなければならぬような状況に来ているのかなというふうに私自身は思っているのですが、その点でのお考えがあれば伺いたいと思います。

○立花学都市開発課長 災害で昨年の10月も大きな被害があって、すぐに今回の8月の台風が大きな災害に至っているという事実については、委員のお話のとおり、非常に異常気象が多く発生してきているということについては、直す側としても理解をしています。

災害復旧に関しては、基本的な考え方としては原形復旧という考え方のもとで復旧するのですが、同じような異常気象が発生した場合に、再度災害防止という観点の中での復旧については、災害の査定の中でも認めていただいていますので、同様な災害が起きないように、再度災害防止の観点からも復旧については積極的に行っていききたいというふうに考えています。

ただ、増水によって被害が甚大に及んでいるような河川については、全ての河川の断面を大きくしなければならぬというような河川改修が必要な河川がございます。

そこについては、なかなか災害復旧で全ての河川改修までの工事ができませんので、今後は被害が大きく及んでいる河川については、河川整備が必要になってくるかなというふうには考えているところです。

○渡部眞美委員長 他にございますか。

○小田部照委員 かなり被害箇所数がすごいこともありまして、復旧に当たる事業所のほうから人手が足りないだとか、手が回らないという話もよく聞きますが、どのような期間で復旧自体を計画されていますか。

○立花学都市開発課長 現在、緊急に直さなければならぬ箇所については、応急的な対策は既に工事として行ってきています。

今後、工事を行っていく順序といたしましては、やはり幹線道路、主要な道路を優先的に直していくのですが、今、委員からお話のとおり、ダンプを使うようなビートの収穫の時期ともバッティングするということもありまして、業界としても人手が非常に少ないというお話を聞いていますけれども、市としてはできるだけ早期に復旧するべく、まず設計を素早くして、工事の復旧にできるだけ早く復帰していただくように業界のほうへ働きかけをしていきたいというふうに考えています。

○小田部照委員 わかりました。

冬になると今度は除雪や排雪も入ってくるので、その前には完成できるような形で、よろしく願いいたします。

○渡部眞美委員長 ほかがございますか。

よろしいですか。

ないようですので、ここでお諮りをいたします。

議案第6号平成28年度網走市一般会計補正予算について、全会一致をもって原案可決すべきものと決定してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

そのように決定をいたします。

○渡部眞美委員長 続きまして、議案第7号平成28年度網走市公共下水道特別会計補正予算につきまして、消化ガス発電施設整備事業について説明を求めます。

○中村昭彦下水道課長 議案第7号平成28年度公共下水道特別会計補正予算について御説明いたします。

議案資料12ページ、資料4号をあわせてごらん願います。

補正の理由及び内容でございます。

消化ガス発電施設整備事業に係る委託費の増額補正をするものでございます。

増額金額ですが、1,500万円でございます。

補正額ですが、歳出予算は補正前の額がゼロ円、補正額が1,500万円。

財源内訳は記載のとおりでございます、補正後の金額は1,500万円でございます。

歳入予算は、記載のとおりでございます。

また、補正後の委託箇所については、議案資料13ページに記載のとおりでございます。

内容といたしましては、消化ガス発電施設の実設計費として計上しております。

網走市スラッジセンターにおいて、汚泥処理の過程で、年間約61万立米の消化ガスが発生しております。

現在は、消化槽の加温の燃料として一部有効利用されていますが、残りの80%は余剰ガスとして燃焼処分されている状況でございます。

この状況により、平成26年度にさらなる有効利用の促進をするため、消化ガスの有効利用に関する可能性調査を行い、再生可能エネルギー固定価格買取制度を活用した消化ガス発電の導入を検討した経緯があります。

当時は、太陽光発電の設備認定の申請が多かったため、北海道電力で接続申し込みに対する回答が保留されていたこと、建設費の回収に20年かかり、収益が1,100万円で少額であったこと、国のFITの制度の運用見直しや買い取り価格の見直しも見込まれたことから、今後の国等の動向を注視することとし、事業化は見送ることで、昨年の決算委員会でも報告させていただきました。

その後も、経済産業省、北海道電力の動向を注視してまいりましたが、平成28年度設備認定の運用に変更があり、平成26年度当時、地方公共団体の設備認定には、工事発注済みでなくては設備認定の申請は受理してもらえなかったものが、受理していただけるということになったこと、また、工事費の財源となる起債の利率が以前の想定していた利率より現在は低く、さらに設備の工事費についても見積もりを取り直したところ、事業費が下がったことで以前より収益が多く見込めることとなりました。

しかしながら、収支については、現在の買い取り価格が1キロワット当たり39円を確保することが前提となります。

そのため、設備認定の許可を要する期間が3カ月から5カ月必要であることから、設備認定申請書の作成に係る実施設計委託を急遽追加議案で提出するものでございます。

以上でございます。

○渡部眞美委員長 ただいま御説明いただきました補正予算について質疑に入ります。

○松浦敏司委員 今回の予算というのは、あくまでも実施設計委託費ということなのですが、今後、本格的に消化ガスの発電機を設置するそういった状況になったときに、この工事の総体的な事業費というのはどのぐらいかかるのですか。

○中村昭彦下水道課長 現在の試算でいきますと、

事業費的には2億2,360万円ほどとなっています。

○松浦敏司委員 相当な金額になるということで、それであったとしても、今後この消化ガスで発生する電気の状況からすれば、十分経営的にはペイするというようなことで、考えているということなのでしょうか。

○中村昭彦下水道課長 今の試算でいきますと、現在の利率、借入率が0.2%であれば、17年後に借りたお金を返せるという状況で試算をしております。

○松浦敏司委員 私も消化ガスの発電機がどのようなものかまだ見たことがないのですけれども、いずれにしてもそういった大まかな状況はわかりました。

ただ、この機械の耐用年数もあるのだろうと思うのですが、耐用年数についても今のところ把握はしているのですか。

○中村昭彦下水道課長 国土交通省の耐用年数でいけば、15年ということにはなっています。

ただ、メーカーのヒアリングでは、一応20年間はメンテナンスのほうはしますという情報を得ております。

○松浦敏司委員 とりあえずは、わかりました。

国土交通省とメーカーとの若干の違いはあるけれども、いずれにしても、借金を返し終わるころには更新の時期が来るのかなというようなことも理解したところでは。

以上です。

○渡部眞美委員長 ほかございますか。

○川原田英世委員 平成26年に検討して今回ということで、事業費が下がったということが一つ要因だということでしたけれども、下がって2億2,360万円ということで、下がる前の平成26年当時ほどのくらいの計画だったのか伺います。

○中村昭彦下水道課長 前回の試算として、今検討している額の2億2,360万円よりも1,180万円ほど高くなっています。

○川原田英世委員 わかりました。

80%の余剰ガスを使用しているということですが、北電につなげてということだと思のですが、どのくらいの発電量があるというふうに考えているのか伺います。

○中村昭彦下水道課長 人口減少も考慮した中で、今見込んでいる発電の量としては53万9,000キロワットほどです。

○川原田英世委員 わかりました。

先ほど松浦委員からもあったように、人口減少があるにしても年間にそのくらいの発電量で、17年後ぐらいには、ということで理解させていただきました。

設備の維持という部分でもいろいろと必要で、メーカーの保証が20年ということであれば、それだけでもつのだらうと思いますけれども、確か以前このスラッジセンターのお話を伺ったら、雨漏りがしているという話があったと思うのですけれども、そういう部分も含めて、いろいろと修理はほかにもお金がかかってくるようなことがあるのかなと思います。そこら辺はいかがなのでしょう。

設置場所を含めて、雨漏りしていない場所なのでしょう。

○中村昭彦下水道課長 6月の補正のときに、スラッジセンターの建築設備の更新ということで減額させていただいたのですが、それについても一応29年度事業で屋根防水等のことは今のところ考えていまして、この先も恐らくいろいろ更新になってくるのですが、今の事業費の中で進めていけることと考えております。

○川原田英世委員 わかりました。

全体的にそういったことも、ほかにかかってくる可能性もあるということで、それを含めながら17年間で消化できるように考えることも必要なかなというふうに思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

以上です。

○渡部眞美委員長 ほかございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、ここでお諮りをいたします。

議案第7号平成28年度網走市公共下水道特別会計補正予算について、全会一致をもって原案可決すべきものと決定してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

そのように決定をいたします。

○渡部眞美委員長 3のその他でございますが、30日に当委員会で予定をしております秋季視察の委員外委員の申し込みが本日となっておりますので、各会派、委員の方、それぞれ委員外の方の申し込みがあれば、事務局に本日までお願いをしたいと思いません。

その他、理事者、委員より何かございますか。

〔「ありません」「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、以上をもちまして総務経済委員会を閉会いたします。

ご苦労様でした。

午前10時25分閉会
